

拘束低減に向けたアルケアの取り組み

情報誌

アルメディア

【PICS 集中治療後症候群】2020 Vol.24 No.3

総論 いま最もホットな話題

神戸大学大学院医学研究科外科系講座
災害・救急医学分野先進救命救急医学部門 特命教授
井上 茂亮先生

論文 PICSの3つの症状と予防のための具体的な取り組み

茨城キリスト教大学看護学部看護学科 准教授
櫻本 秀明先生

論文 尊厳あるケアと看護倫理

浜松医科大学医学部看護学科基礎看護学講座 教授
片山 はるみ先生

アルメディア

【せん妄の理解と全身管理】2016 Vol.20 No.3

巻頭論文 せん妄の理解：分類・原因・病態

自治医科大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座
(集中治療医学部門) 教授
布宮 伸先生

論文 せん妄の診断と治療・ケア：せん妄への対応がうまくいかないのはなぜか

自治医科大学医学部麻酔科学・
集中治療医学講座(集中治療医学部門) 教授
布宮 伸先生

<https://www.alcare.co.jp/medical/member/almedia>



勉強会

【テーマ】身体拘束に関わる看護倫理

【講師】片山 はるみ先生 浜松医科大学医学部看護学科基礎看護学講座 教授

【内容】法と倫理、倫理的ジレンマ、生命倫理・医療倫理、拘束の問題点と悪循環、せん妄、拘束をしなくて済むケアの3原則

【企画意図】身体拘束にはどのような倫理的問題があるのかを学ぶことにより、看護師さんのジレンマの解決にも繋がるのではないかと考え、急性期病院での身体拘束低減の取り組みと成果について研究発表されている片山はるみ先生の勉強会を企画しました。

<https://www.alcare.co.jp/medical/studygroup/kangorinri/>



セミナー

第24回日本看護管理学会ランチョンセミナー 4 2020年8月27日web開催

【テーマ】超急性期医療における身体拘束。なぜ身体拘束をやめられないのか？

【講師】卯野木 健先生 札幌市立大学 看護学部 成人看護学領域(急性期)・教授

【座長】小藤 幹恵先生 公益社団法人石川県看護協会・会長

【内容】超急性期における身体拘束に対して看護実践と研究の両面からアプローチしている卯野木先生がこれまでの認識を見直す必要と今後取り組んでいくべき看護・医療の在り方について豊富なデータに基づき講演

【企画意図】身体拘束の低減を医療者と一緒に考え取り組むために、まずは身体拘束について考えること、目を向けることから始まるのではないかと思います企画しました。

第25回日本看護管理学会ランチョンセミナー 1 2021年8月28日

【テーマ】学び合い、育ちあう、チームのつくり方～話しやすさを生む場づくり

【講師】浦山 絵里先生 講師)ひとづくり工房esuco(泉すこ)代表 看護師 ナースファシリテーター

【座長】小藤 幹恵先生 公益社団法人石川県看護協会・会長

【内容】身体拘束低減といったテーマで全員参加で何かに取り組もうとする際、単にリーダーが号令をかけて引っ張っていくのではなく、まず現状やテーマについてともに率直に語り合える場を持つことが必要になります。そのためにはチーム内で話し合う力を育て、「学び合い、育ちあう」チームになることが大きなポイントになります。

【企画意図】この話しやすさを生む場づくりをテーマに、少しでも皆さまのご参考にしていただけるような内容を企画しました。

セミナーの記録集電子PDFになっております。URLもしくは二次元コードからアクセスいただき、ページの下部にスクロールし各セミナーの下にあるランチョンレポートをクリックしてください。

<https://www.alcare.co.jp/medical/product/nursing/yokusei/clearmittens-tsutsumi.html>



アルケア株式会社

東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル19階 〒130-0013
www.alcare.co.jp

お問い合わせ：コールセンター

フリーダイヤル **0120-770-863**

土・日・祝日を除く
午前9:00～午後5:00

つなぐ手あて、ひらくケア。

拘束を少しでも減らすために、 アルケアが、できること。

「身体的拘束の最小化」が入院基本料に「減算(40点)」の形で組み込まれ、病院経営の視点からも組織として取り組まなければならない課題となり、看護の現場では大きな変化となったのではないのでしょうか。

アルケアでは、2019年の身体拘束商品の発売をきっかけに、拘束低減活動を行ってきました。

“直ぐに拘束はなくせない” “ゼロは無理”というお声もたくさんいただきます。
だからこそ、アルケアでは拘束をしなくていい世界へ向けて、現在は拘束の低減に取り組んでいます。

拘束を少しでも減らすために、拘束せざるを得ない原因を取り除き、
良いケアの循環に繋がるサポートがしたい。

これからも本来やりたかった患者さん中心の看護を応援し、
身体拘束が低減できるよう皆さまとともに取り組んでまいります。



《拘束低減活動※》

- ◆ 拘束低減は看護師一人の力では難しく看護管理者の意識や活動が必要不可欠と考え、看護管理学会でのセミナーを継続的に開催
- ◆ 組織を動かす、チームを動かすためのファシリテーションのワークショップ
- ◆ どうやったら拘束を減らせるのかを参加者で語り合う、「抑制低減を考え続ける会」

※2025年より「抑制低減活動」から「拘束低減活動」へ名称を変更しました。

アルケアの 拘束低減活動

研究開発

拘束しなくても済む方法の模索
拘束の要因など研究推進する

商品提案

自己抜去の理由として「なぜ抜こうとしたのか」など
原因や要因を追求した商品の提案

“拘束の低減”を提案

アルケアの自社開發生産、販売の強みを活かし
拘束しなくてもいい方法を模索し、商品開発や研究を推進していきたい

アルケアも一緒に考えていきたい。

やむを得ず行わなければならない拘束において、患者さんの手に触れる。
それだけでも、看護行為と患者さんの気持ちに「ゆとりと安心」をもたらすことができるのではないのでしょうか。

看護する側、される側。互いの負担の軽減が、看護行為のコミュニケーション向上につながれば。
アルケアの製品には、そんな願いが詰まっています。



正解がわからないからこそ 看護の力で試行錯誤する
現場・皆様の想いを一緒に、カタチに。

皆さまの声を聴かせてください

拘束低減活動への共感の声をたくさんいただいております

セミナーアンケートより抜粋

“看護倫理の活用事例等もお聞きたいです。
大変わかりやすい研修会を無料で実施していただきありがとうございます。”

“身体拘束低減化の取り組みを発信していただくことで、取り組みや研修の参考になると思います。
全国の施設での身体拘束がいずれなくなることを願っています。”

“身体拘束以外のケアで、その人の生活を守り支援していける医療を共に目指していきたいです。”

“身体拘束については、様々な問題が患者側にも医療者側にもあり、拘束をしない方法を選択したくてもできない時もあり、ジレンマが多いです。
本当に必要な活動だと思います。私もぜひ、参加させてもらいたい活動だと思いました。今後も期待しています。”

“私は、身体拘束は絶対したくない。なので、今後もぜひ応援したいです。頑張ってください。応援しています。
私も、まずは、声を上げていきます。研修会の開催ありがとうございました。”

出典元：ナースینگケアセミナー アルケア身体抑制低減活動(3回シリーズ)急性期から介護施設、在宅まで「身体的拘束の最小化」を実践するポイント
セミナー配信期間：2024年5月27日～6月28日 対象：看護師 視聴後アンケート回答者：500名